東京画廊 BTAP
TOKYO GALLERY + BEIJING TOKYO ART PROJECTS

『有司男＋乃り子：篠原展』

≪地下鉄の入り口（NY）≫(1981) 油彩、キャンバス
187×287cm　（出品予定）

展覧会タイトル　有司男＋乃り子：篠原展

会期　2014 年 2 月 22 日（土）- 3 月 29 日（土）
会場　東京画廊+BTAP｜東京
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第 4 秀和ビル 7 階
TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689
開廊時間　(火—金)11:00-19:00　(土)11:00-17:00
閉廊日　日、月、祝
レセプション・パーティー
2014 年 3 月 7 日（金）｜17:00-19:00
東京画廊+BTAP にて

お問い合わせ　矢作 学（manabu.yahagi@tokyo-gallery.com）

この度東京画廊+BTAP では、篠原有司男と妻・篠原乃り子の二人展『有司男+乃り子：篠原展』を開催致します。現在、二人の生活を描いたドキュメンタリー映画『キューティー&ボクサー』が世界各地で上映され、同作品は 2014 年度米国アカデミー賞長編ドキュメンタリー賞にノミネートされています。本展では、半世紀に渡って「前衛の道」を体現し続ける篠原有司男の作品と、映画の重要な要素にもなっている篠原乃り子の自叙伝的作品「キューティー・シリーズ」を展示致します。愛憎と愛情がぶつかり合いながらも、アーティストとして共通の信念をも持ち合う二人の展覧会を、是非この機会にご高覧ください。3月7日（金）に、レセプション・パーティーを開催致します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

東京画廊 BTAP
TOKYO GALLERY + BEIJING TOKYO ART PROJECTS

篠原有司男（1932- 東京都生まれ）

「曲解的完成度」
アインシュタインの言葉に「気違い的発想だと思わなければ、未来は無い」とある。
これを続けて行くには勇気がいる。
毒気を抜かれた完成より曲解に満ちた未完成を選ぶ。
“早く、美しく、リズミカル”、のボクシング・ペインティング三原則を基礎に、絵画、彫刻を制作に不必要な、一切を切り捨て、発想の原点だけを極端に強調する。

－ 篠原有司男

≪ピアニスト≫(2013) ミックスドメディア
ピアノ：16×29×23cm /ピアニスト：31.3×25.3×12.5cm
（出品予定）

1958 年から当時の若手前衛作家の温床となる読売アンデパンダンに 5 年連続出品。1960 年には赤瀬川源平、吉村益信、荒川修作らとネオダダ・オルガナイザーズを結成。60 年代には「ボクシング・ペインティング」と「イミテーション・アート」を発表。これは、当時世界を席巻したアクション・ペインティングとポップアートへの直接的な応答となった。1966 年に東京画廊で「花魁」を発表。1968 年に前衛芸術家としての姿勢を説いた『前衛の道』を発刊し、翌年ロックフェラーⅢ世の財団から奨学金を得て渡米。以来、ニューヨークに在住し、「モーターサイクル・シリーズ」などを制作・発表する。2012-13 年にはニューヨーク近代美術館で開催された『東京 1955-1970：新しい前衛』に出品するなど、戦後の前衛美術を牽引した一人として広く認知されている。

【略歴】
1952　東京藝術大学油絵学科入学（1957 年中退）
1960　ネオダダイズム・オルガナイザーズ創設、《ボクシング・ペインティング》を創始。
1969　ロックフェラー基金で渡米、以後ニューヨーク在住。

【主な個展】
1966　『Doll Festival』 東京画廊、東京
1975　アズマ画廊、ニューヨーク
1982　ジャパンハウス・ギャラリー、ニューヨーク
1992　回顧展、広島市現代美術館、徳島県立近代美術館、つかしんホール、ハラミュージアムアーク
2005　『篠原有司男 ボクシング・ペインティングとオートバイ彫刻展』 神奈川県立近代美術館
2006　回顧展、霧島アートの森、鹿児島
2013　『Shinohara POPS!』 ニューヨーク州立大学ニューパルツ校付属ドースキー美術館

【主なグループ展】
1958-63 『読売アンデパンダン展』
1998　『アクション 行為がアートになるとき 1949-1979』 東京都現代美術館
2007　『ギュウとチュウ 篠原有司男と榎忠』 豊田市美術館
2010　『Love is a Roar-r-r-r』 hpgrp GALLERY NEW YORK
2012-13 『東京 1955-1970：新しい前衛』 ニューヨーク近代美術館

東京画廊 BTAP
TOKYO GALLERY + BEIJING TOKYO ART PROJECTS

篠原乃り子（1953- 富山県生まれ）

Cutie は怒りから生まれた。Uranus の精液が海の泡となり、そこから生まれた Aphrodite のように。
そして宇宙人に進化した Cutie は、いつの間にか Bullie 操縦術を覚えて、輝き始めた。そして、進化して、あるときは Audrey、あるときは Marilyn、そして Raphael の椅子の聖母、Titian の「略奪の Cutipa」、そして今や映画のヒロインとなり、変幻自在。一体どう進化するのだろう。

— 篠原乃り子

≪Great Expectation “Cutie Dreams of Being C…”≫(2013)
油彩、キャンバス、24×31.5 cm（出品予定）

1972 年に渡米。Art Student League で油絵を半年間学び、抽象表現主義の傾向の強い作品を制作。1981 年に『ホイットニー・カウンターウェイト』（ホイットニー美術館開催のホイットニー・ビエンナーレに参加できなかった作家たちの自主企画展）に出品し、ニューヨークで初めて作品を発表。1986 年にキャッツ・クラブで初個展を開催。90 年代に入るとエッチングに新たに取り組む。この頃から自宅に私的な空間を設け、そこで作品制作に取り組むようになる。1989 年から 2 年半、ニューヨークの日系新聞に小説『子育て地獄』を連載し、後に書籍『ためいき紐育』を出版。2005 年から「キューティー・シリーズ」を制作。Cutie という自らの化身を通じて、ニューヨークでの生活を陶器のように透明性のある青色と白色のモノクロームで描く。

【経歴】
1972　高岡高校卒業後渡米、以後在住。アート・ステューデント・リーグで学ぶ
1995　京都市立芸術大学でエッチングを学ぶ
【主な個展】
1986　キャッツ・クラブ、ニューヨーク
1999　ガラリア・グラフィカ、東京（版画作品を発表）
2005　新潟絵屋
【主なグループ展】
2003　『ニューヨーク国際版画センター 新作版画展』 ニューヨーク
2005　『ニューヨーク国際版画センター 新作版画展』 ニューヨーク、シカゴ・コロンビア・カレッジに巡回
2006　アーモディーン、ニューヨーク
　　Gallery Now、富山
2007　『Making a Home』 ジャパン・ソサエティー、ニューヨーク
2010　『Love Is A Roar-r-r-r』 hpgrp GALLERY NEW YORK
2012　『Ways of Life』 hpgrp GALLERY NEW YORK
【主な著作】
1988-91　ニューヨークの日系新聞に小説『子育て地獄』を連載。1994 年に『ためいきの紐育』として出版。